

聖上入御

(午前十時二十七分閉會)

議長男爵倉富勇三郎

書記官長二上六次

書記官

堀江季雄

武原盛雄

滿洲事變ニ關スル報告

昭和六年九月三十日(水曜日)會議閉會後午前十時三十分宮中東溜間ニ於テ開會

出席員

倉富議長

平沼副議長

大臣

若槻内閣總理大臣
兼拓務大臣

幣原外務大臣

安達内務大臣

南 陸軍大臣

顧問官

金子顧問官

久保田顧問官

富井顧問官

石黒顧問官

黒田顧問官

古市顧問官

江木顧問官

櫻井顧問官

荒井顧問官

河合顧問官

鎌田顧問官

石井顧問官

水町顧問官

岡田顧問官

福田顧問官

書記官長

二上書記官長

書記官

堀江書記官

武藤書記官

倉富議長 只今ヨリ滿洲事變ニ關スル報告ア

ルニ付御聽取ヲ請フ

若槻内閣總理大臣 去ル十八日ノ夜奉天北方

ニ位スル北大營ノ西方ニ於テ支那兵カ我滿

洲鐵道ノ線路ヲ破壊シ我守備隊ヲ攻撃セル

ニ因リ我軍モ之ニ應シテ兵火ヲ交ハタルハ

新聞紙ノ報道シタル通ナリ既ニ一旦戰鬥ヲ

開キタル以上ハ我軍ノ危險ノ排除居留邦人

ノ保護及滿洲鐵道ノ保全ノ爲必要ナルヲ以

テ我軍司令官ハ極メテ迅速ニ其ノ適當トス

ル行動ヲ執リタリ本事變ノ發生ハ洵ニ遺憾
ナレトモ既ニ危害ノ發生シタル以上之ヲ排
去スルハ元ヨリ國家當然ノ自衛行為ナリ然
レトモ政府ニ於テハ努メテ事件ノ擴大ヲ避
ケ居レリ實ハ速ニ報告スヘキ筈ナリシモ事
件ハ全ク突然ノ發生ニシテ其ノ處理ハ急速
ヲ要シ且何處マテ發展スヘキヤ不明ナルノ
ミナラス之ニ伴フ外交關係ノ應接ニ忙シク
爲ニ報告ノ遲レタルハ遺憾トスル所ナリ本
日ハ軍事ニ付テハ陸軍大臣外交ニ付テハ外

務大臣ヨリ夫々報告ヲ爲スヘシ

南陸軍大臣 今次ノ事變ノ突發ニハ元ヨリ直
接ノ原因アラムモ近年支那人ノ感情カ著シ
ク排日的侮日的ト成リ我カ共存存榮ノ精神
ト背馳スルモノアルヲ痛感シタリ殊ニ最近
ニ到リテハ支那青年ノ思想著シク侮日的ト
ナリ其ノ結果支那ノ軍隊モ亦屢侮日的行動
ヲ爲スニ到レリ彼等ノ兵營ヲ觀ルニ或ハ日
本ハ吾人ノ敵ナリ宜シク打倒スヘシト宣傳
シ或ハ日本ハ弱シ我ニハ實戰ノ經驗アリ日

兵恐ルルニ足ラスト豪語シ之ヲ以テ軍隊教育ノ標語トセリ此ノ教育ハ引イテ其ノ日常ノ行動ニ表レ日本兵ニ對スル侮辱事件ハ最近ノミニ於テモ十二件ノ多キニ達セリ例ヘハ鐵道守備隊ノ前面ニ於テ軌道上ニ石ヲ置キ我歩哨ニ對シテ公然輕侮ノ態度ヲ爲シ或ハ我巡邏兵ニ對シテ侮日的行動ヲ加ヘ之カ爲我兵ノ負傷シタルモノ四名ニ及ヘリ加之滿洲鐵道沿線ニ來襲スル馬賊ノ行動モ近頃極メテ大膽ニシテ而モ多分ニ排日的氣分ヲ有

シ其ノ出現モ亦本年ハ殊ニ多シ先月赴任シタル關東軍司令官本庄中將ハ初回ノ巡視ニ於テ鐵道沿線ノ到ル所ニ於テ日軍ニ對スル幾多ノ輕侮的態度アルコトヲ痛感セリ之ヲ以テ我軍ハ警備上大ニ注意ヲ加フルノ要アリトシ未夕曾テ前例ナキ嚴正ナル訓令ヲ發セリ

然ルニ本月十八日午後十時三十分約七千名ノ兵員ノ屯營スル北大營ノ西側ニ於テ滿洲鐵道線路ヲ破壞スル支那兵アルヲ發見シタ

ル我鐵道守備隊ニ對シ支那軍ヨリ射撃ヲ爲シタルニ由リ我守備隊モ之ニ應シテ兵火ヲ交ヘタリトノ急報ニ接シタル虎石臺ノ我中隊ハ直ニ其ノ支那軍ニ向テ進撃ヲ爲シ激戰ノ後直ニ其ノ兵營ヲ占領セリ在奉天ノ獨立守備隊モ亦事件勃發ノ通知ヲ受ケテ直ニ集合奉天城内及東大營約七千名ノ兵屯ノ支那兵ノ驅馳ニ從事セリ遼陽ニ駐在スル第二師團ノ主力モ亦事件ノ突發ヲ知り午前八時ニハ大體奉天ニ到着シ直ニ城内及東大營ノ攻撃ニ參加シ同十一時頃ニ到リテ略其ノ目的ヲ達セリ旅順ニ於ケル我軍ハ午前二時頃事變ノ發生ヲ知り同三時奉天ニ向ヒ正午頃安著セリ

長春ニハ平常約一萬ノ支那軍アリ而シテ其ノ一部ヲ南嶺ニ他ノ一部ヲ寬城子ニ置ケリ而シテ同地ニ於ケル我軍ハ鐵道守備隊六百名ノ外獨立守備隊一千餘名ニ過キサルカ電話ニ依リ事變ノ突發ヲ知り午前三時寬城子ノ兵營ヲ夜襲セルカ抵抗頑強ニシテ天明ニ

至ルモ之ヲ擊退スルコトヲ得ス午前十一時
ニ到リテ之ヲ占據セリ南嶺ノ攻撃ハ更ニ苦
戰ノ上午後三時ニ到リテ辛ウシテ之ヲ占領
スルコトヲ得タリ奉天ハ十九日大略平定シ
タルヲ以テ直ニ一部隊ヲ長春ニ増派シ二十
日ヨリ專ラ敗殘兵ヲ掃蕩シテ市内ノ治安ニ
任セリ

元來長春ノ支那部隊ハ吉林ニ本營ヲ有スル
張作相ノ部下ナルカ長春部隊敗退ノ報ニ接
シ吉林ヨリ應援來ルヘシトノ情報アリ仍テ

我軍ハ直ニ長春部隊ヨリ其ノ主カヲ吉林ニ
派遣シ午後六時迄ニ完全ニ其ノ屯營ヲ我手
ニ收メタリ尚其ノ一部隊ハ敗殘兵ヲ追擊シ
テ敦化ニ到レリ

西方ニ向テハ遼河ニ輕部隊ヲ出シタルノミ
斯クテ關東軍ノ行動ハ大體ニ於テ二十三日
ヲ以テ平靜ニ歸セリ

朝鮮軍ニ於テハ十九日早朝ニ到リ奉天ノ事
變勃發ヲ知り直ニ増援ノ目的ヲ以テ龍山及
平壤ヨリ混成部隊ヲ編成シ國境ニ至リテ待

機セリ然ルニ關東軍ヨリハ頻々トシテ應援ヲ求メ來リタルノミナラス遼陽ノ第二師團ハ其ノ主力ヲ吉林ニ向ケタル爲南滿鐵道沿線防備ノ手薄ナルヲ察シ二十二日午後軍司令官ノ獨斷ヲ以テ國境ヲ越エテ出動セリ時偶閣議ニ於テハ朝鮮部隊ノ出發ヲ差控ヘルコトニ決セルモ既ニ獨斷出發ノ電報到達セルヲ以テ直ニ參謀總長ハ之ヲ上奏シ本官ハ之ヲ總理大臣ニ報告セリ元來滿洲ニハ約三十二萬ノ軍隊アリ内十一

萬ハ張學良ニ屬シ残りノ二十一萬ハ皆滿鐵沿線ニ在リ之ニ對シ我關東軍ハ鐵道守備隊ト獨立守備隊トヲ合セテ總數僅カニ一萬四千人ニシテ支那軍ノ約二十二分ノ一ニ過キス而モ守備スヘキ南滿鐵道ノ長サハ千百キロメートルニ及フカ故ニ朝鮮軍司令官ニ於テハ同鐵道ノ沿線ニ兵ヲ配付シ速ニ關東軍ノ空虚ヲ埋メサルヘカラスト考ヘタルト同時ニ豫テ統帥上滿洲ニ事アルトキハ直ニ朝鮮軍ハ混成部隊ヲ編成シテ臨機出動スヘキ

モノト爲レルニ由リ獨斷ヲ以テ出動シタル
モノニシテ參謀總長ニ於テモ之ヲ適當ト考
へ上奏シタル次第ナリ其ノ後哈爾濱及關東
軍ヨリハ屢増兵ノ請求アリタルモ十九日ノ
閣議ニ於テ之レ以上事件ヲ擴大セサル方針
ニ決シタルニヨリ一切之ニ應セスシテ經過
セリ哈爾濱モ最近張景惠ノ努力ニ依リ治安
ヲ維持シ漸次平靜ニ歸セルカ如シ
今次ノ軍事行動ハ十八日ニ始マリ二十三日
ヲ以テ大體終了シタルカ其ノ行動極メテ機

敏ニシテ到ル所攻勢ニ出テタル爲世間種々
ノ憶測ヲ生シタルハ甚タ心外トスル所ナリ
滿洲鐵道ノ如キ長距離ニ互ル區域ヲ少數ノ
部隊ヲ以テ守備スルモノニアリテハ殊ニ我
ニ數十倍スル軍隊ニ對抗スル場合ニ於テハ
唯神速ナル行動ヲ以テ未タ能ク敵ノ備ヘサ
ルニ先チテ之ヲ強襲スルニ非サレハ到底其
ノ任務ヲ果シ得ルモノニ非ス張學良ハ無抵
抗主義ヲ執ルト揚言スルモ事實ニ於テハ大
ニ然ラス頑強ニ抵抗シタレハコソ我軍ニ於

テモ已ニ二百餘名、負傷者ヲ出シタルナレ
神速機敏ハ實ニ關東軍ノ標語ニシテ平素唯
之ノミヲ研究シ且訓練セリ關東軍ノ今次ノ
機宜ニ適シタル行動ト其ノ成績トハ大ニ多
トスヘキモノナリト信ス以上ヲ以テ今回ノ
事變ノ大要トス餘ハ御質問ニ應シテ答フル
コトトスヘシ

幣原外務大臣 今回ノ事件ノ原因ニ付テハ唯
今陸軍大臣ヨリ報告アリタル通ナルカ本件
ノ遠因ト認ムヘキ點ニ付簡單ニ述フヘシ第

一 滿洲ノ政治界ニ活動スル少壯者ト居留民
トハ思想上ニ非常ナル相異アリ政治上ノ經
驗アル年輩者ハ已ニ政界ヲ退キ現在ノ政治
ニ對シテハ興味ヲ有セス今日滿洲ニ於テ活
動セルハ皆少壯ノ人々ニシテ日本ノ局長次
官等ニ相當スル地位ヲ占ムル者ノ多クハ歐
洲大戰後北京大學ヲ卒業セルモノナリ民間
ニ於テモ同シク少壯者カ相當有力ノ地位ヲ
占ムルモノナリ而シテ此等ノ人々ハ何レモ
新思想例ヘハ不戰條約國際聯盟ト云フカ如

キ主義思想ヲ以テ教育セラレ古キ歴史ヲ知
ラス日清日露ノ戦争等ニ對シテハ殆ト無關
心ニシテ滿洲ハ我等ノ力ニテ發展セリ滿洲
ノ主權ハ我ニ在リ日本カ種々行動スルハ不
都合ナリト思惟セリ然レトモ滿洲居留ノ人
々ニシテ此等ノ思想ヲ研究セルモノハ甚ク
少キカ如シ日本人カ滿洲ニ關シ日清日露ノ
戰役ヲ考フルコトハ無理モナキコトナレト
モ支那人ノ思想トハ根底ニ於テ相違アルヲ
如何セン第二ノ遠因ハ世界的不景氣ノ結果

ナリ

金子顧問官 日支衝突ノ遠因等ニ關スル總論
ハ之ヲ他日ニ譲リ今日ハ手短ニ國際聯盟ニ
於ケル本件ニ關スル議事ノ經過ニ付報告セ
ラレタシ本官等ハ之ヨリ多數ノ質問ヲ爲サ
サルヘカラス

久保田顧問官 本員モ金子顧問官ノ意見ニ同
感ナリ

江木顧問官 思想ニ關スルコトハ充分ニ聽キ
タシ樞密院ハ優裕靜暇潛思凝慮ヲ本分トス

ル所ナリ仍テ本員ハ午後ニ互ルモ可ナルカ
故ニ外務大臣ノ話ヲ聽キタシト考フ議長ニ
於テ然ルヘク取計ハレタシ

倉富議長 金子顧問官及久保田顧問官ノ述ヘ
ラレタル所ハ報告ノ順序ニ關スルモノナリ
報告ハ外務大臣ノ考ヘニ依ルヘキモノナル
コト勿論ナルカ此ノ場合江木顧問官ニ於テ
主張ヲ讓ラレテハ如何

金子顧問官 本員ハ決シテ外務大臣ノ話ヲ阻
止スルモノニアラス報告ノ詳細ナルコトハ

勿論喜フヘキモ政府ハ内外政務多端ノ際本
會カ午後ニ互ルモ差支ナキヤ總論的報告ハ
之ヲ後日ニ延スヲ可トスヘシト云フノミ

江木顧問官 本件ハ重大ナル問題ナルヲ以テ
充分ニ外務大臣ノ説明ヲ聽キタシト考フ

幣原外務大臣 事件發生ノ遠因ト近因トニ付
説明スル考ナリシモ時間ヲ節約スル爲直ニ

國際聯盟トノ關係ヲ述フヘシ九月十九日瑞
西ノ新聞紙上ニ本件ニ關スル電報掲載セラ
レ國際聯盟理事會ノ議長タル「レ」氏ヨリ

我芳澤代表ニ對シ本件ニ關スル新聞紙ノ報道ハ大ニ一般ノ感情ヲ刺戟セルヲ以テ貴下ヨリ事件ノ成行ヲ報告セラレタシトノ申出アリ依テ芳澤代表ハ之ヲ肯諾シ理事會開會ノ劈頭ニ於テ東京電報ニ依リ滿洲鐵道線路ニ於ケル日支兩軍ノ衝突ノ事實及我政府ハ事態ノ緩和ニ努力シツツアル旨ヲ述ヘタルカ支那代表ハ本件ノ發生ニ付支那側ニハ何等挑發ノ事實ナシト述ヘタリ越エテ二十一日支那代表ハ理事會議長ニ對シテ本事件ニ付國際聯盟規約第十一條ニ依リ理事會召集ノ請求ヲ爲セリ是ニ於テ二十二日理事會ノ召集アリ支那代表ハ日本軍隊ノ行動ヲ誇大ニ報告シ日本代表ハ事件發生前後ノ事情ヲ明カニシ事件カ全ク己ムヲ得サル成行ナルコト及事件ノ擴大防止ニ努力シツツアルコトヲ說キタルカ理事會ハ支那カ事情ノ如何ニ由リ他ノ條項ニ依リ日本ニ對シテ適當トスル處置ヲ執ルニ至ラサルコトヲ望ム旨ヲ議決シ支那代表ハ之ヲ受諾スト宣明セリ

本官ハ本件ノ解決ハ日支兩國ノ直接交渉ニ
依ルヲ適當ト考ヘ日支ノ共同調査委員會ヲ
設ケムコトヲ申込ミタルニ對シ宋子文ハ一
旦之ヲ快諾シタルモ後ニ到リテ之ヲ取消セ
リ而シテ聯盟ニ於ケル支那代表ハ理事會ニ
於テ日支ノ直接交渉ヲ不可トシ聯盟ノ調査
委員會ノ設立ヲ要望シ速ニ現状回復ヲ必要
トスル旨ヲ力説セリ次テ理事會ハ本件ニ關
シ三項ニ互ル決議ヲ爲シ之ヲ關係各國へ通
知セリ該決議ハ日支ノ戰鬥行爲ノ中止ヲ要

求セス生命財産ヲ危殆ナラシメサル様適當
ナル方法ヲ發見スル爲考慮セムコトヲ求ム
ト云フニ在リ日本ノ行動ニシテ此ノ決議ニ
反スルトキハ事態ヲ紛糾セシメ規約第十五
條ヲ適用セララルルノ危険アリ若シ同條ノ適
用ヲ受クルトキハ紛争國ノ代表ハ理事會ノ
報告書決定ニ付除外セララルコトアルヘク
甚タ不利益ナリサレハ帝國ハ大體ニ於テ聯
盟ノ意見ヲ尊重シ詳シク帝國ノ態度ヲ説明
シテ世界ヲ敵トセサルコトカ必要ナリト考

ハタリ次テ二十三日理事會議長及英佛獨伊
ノ委員會合シテ此ノ際現地視察員ヲ派遣ス
ルコト而シテ右視察員ハ第三國ノ公使館附
武官ヲ以テ之ニ充ツルコト若シ日本ニシテ
之ニ反對スルトキハ日本ヨリ之ヲ招請スル
ノ形式ヲ執ルモ可ナリト提議セリ之ニ對シ
我方澤代表ハ視察員ヲ現地ニ派遣スルコト
ハ國民ヲ刺戟シ反テ本件ノ解決ヲ困難ナラ
シムルモノト爲セリ而シテ二十四日ニ至リ
日本政府ハ始メテ本件ノ經過ニ關スル聲明

書ヲ發シ且芳澤代表ヲシテ理事會ノ議長ニ
對シ次ノ如キ主旨ヲ以テ回答セシメタリ日
本政府及滿洲守備隊ハ事件ノ擴大ヲ防止シ
且之ヲ平和的ニ解決スル爲支那政府ニ對シ
直接交渉ヲ開始セムトシ軍隊ノ大部分ハ已
ニ附屬地ニ歸還セシメ尚殘留セルモノト雖
各地方ノ治安ニ當リ邦人ノ生命財產ヲ保護
スルノ外ニ出テサルモノナレハ須ラク日本
ヲ信賴スヘシト而シテ此ノ回答文及聲明書
ハ理事會ニ於テ朗讀セラレ日本代表ハ本件

ハ日支ノ直接交渉ニ依リ平和的ニ解決スヘ
キコトヲ言明シ理事會ノ是レ以上ノ干涉ヲ
排斥シタリ之ニ對シ支那代表ハ不平ヲ述ヘ
タルカセシル卿ハ事態ハ己ニ緩和シ聯盟勸
告ノ目的ハ達セラレタル旨ヲ陳述シ議長モ
亦事態ハ是レ以上惡化セサルヘキ旨ヲ告ケ
テ散會セリ支那代表ノ不確實ナル宣傳ニ因
リ誤解セシメラレタル理事國代表者等ハ日
本代表ノ此ノ辯明ニ依リ満足ヲ表シタルカ
如シ時恰モ壽府ニ於テ國際聯盟總會ノ開會

中ニ屬シ代表者ヲ以テ參集セル聯盟國ハ多
クハ小國ニシテ聯盟ノ力ニ依頼スルモノ多
クセシル卿カスル事件ハ大國ノ態度ニ信賴
シテ可ナリト述ヘタル言辭ニ對シテ反感ヲ
抱キタルカ如キモ日本政府ハ其ノ聲明書ノ
通著々實行セリトテ一般輿論ハ漸次緩和ス
ルニ到レルカ如シ

米國政府ノ態度ハ目下日本ニ同情的ナリ二
十二日出洲大使カ國務長官ニ面會シタル際
各方面ヨリノ報道ニ依レハ事態ハ惡化セル

カ如キモ是ヲ擴大セシメサラムトスル日本
ノ方針ハ之ヲ知レリ米國政府ハ日本政府ノ
意中ヲ察シ公ノ行動ヲ差控ヘツツアリ但シ
軍ノ行動ハ公平ナル第三者ヨリ觀テ大規模
ナルカ如ク考ヘラルル旨ヲ告ケ非公式ニ文
書ヲ交付セリ同大使ハ翌日更ニ同長官ト會
見セルニ同長官ハ聯盟理事會ニ於テ日支兩
國ニ對シ勸告ヲ爲スニ付米國ニ於テモ同様
ノ處置ヲ執ラレタシト申シ來レリ然シ米國
トシテハ公式ノ行動ヲ執ルコトハ之ヲ差控

ヘタキモ聯盟ノ申込ヲ拒絕スルコトハ爲シ
難ク苦慮中ナルカ日本ニ於テハ速ニ列國ヲ
シテ安心セシムル様取計ハレタシ尤モ米國
ヨリ視察員ヲ派遣スルコトハ不適當ナリト
考フル旨ヲ述ヘタリ夫ヨリ同大使ハ更ニ國
務次官ヲ訪ヒ事件ノ經過ヲ説明シタル後支
那ハ特異ノ國ニシテ嘗テハ英國モ派兵シ米
國モ亦派兵シタルコトアルニ拘ラス今回ノ
如キ場合直ニ問題ト爲ルハ甚々解シ難シ調
査員ノ派遣モ亦不都合ナリト考フル旨ヲ述

ハタリ然ルニ米國ニ於テハ聯盟理事會ノ申
込ヲ正面ヨリ拒絶スルコトヲ穩ナラスト考
ヘタル結果一ノ公文ヲ作成シテ之ヲ我代表
ニ交付セリ該文書ハ漠然タル言葉ヲ以テ是
レ以上敵對行爲ヲ爲スコトヲ阻止セラレタ
キ旨ヲ述ヘタルヲ以テ日本政府ニ於テハ新
聞紙ニ掲載セラレタルカ如キ意味ノ回答ヲ
送レリ

日本政府ハ何時ニテモ本件ノ解決ニ付交渉
ヲ爲ス用意アルモ其ノ相手タル者ハ充分約

束ヲ實行シ得ヘキ責任者タルコトヲ要ス張
學良ハ己ニ其ノ根據ヲ失ヒ南京政府モ亦目
下廣東政府ト妥協中ニ屬シ蔣介石ハ首席ヲ
辭シ總司令トナルヘキ希望ヲ有スルモ廣東
側ハ之ヲ不可トシ前途ハ混沌タリ若シ廣東
政府ニシテ確立セハ日本ハ之ヲ相手トセサ
ルヘカラスト考フ廣東政府ノ中心タル汪兆
銘ハ孫文ノ遺志ヲ奉シ支那ノ眞ノ發展ヲ望
マハ必ス日本ト提携スルノ要アリトノ意見
ヲ有セリ尤モ之カ現實ハ非常ニ困難ナラム

ト考ヘラル日本ハ本件ノ解決ヲ急クコトナ
ク徐ニ事態ノ展開ヲ靜觀スルヲ可トスヘシ
ト考フ

江木顧問官 國際聯盟ニ於テモ滿洲事變カ支
那ノ排日思想ニ基クコトヲ明ニスルコトヲ
急レリ聯盟規約ハ歐洲ニハ能ク適合スルモ
東洋殊ニ支那ニハ適合セス本官ハ大正九年
貴族院ニ於テ該規約ノ東洋諸國ニ適セサル
コトヲ縷々論述シタルコトアリ該規約ニ依レ
ハ事態急迫ヲ告クルモ數ヶ月ノ後ニ非サレ

ハ問題ノ解決ハ出來ス然ルニ支那トノ關係
ニ於テハ此ノ如ク悠長ナルコトヲ許サス場
合ニ依リテハ即時陸戰隊ヲ上ケテ居留民ヲ
保護スルノ要アリ斯ノ如キ事情ハ歐洲ニ無
キコトナレトモ東洋ニハ支那ト謂フ國アリ
テ聯盟規約ニ依リ難キモノアルヲ豫テ明ニ
セサルヘカラス此ノ支那ノ特殊ノ事情ヲ明
瞭ニ了解セシメタラムニハ歐洲諸國モ我ニ
同情ヲ吝マサリシナラム支那ニ於テハ遠ク
二十二年前ヨリ排日教育ヲ行ヒ日本ヲ敵國

視セリ民國五年編成ノ國定教科書ヲ見ルニ
修身讀本地理歴史何レモ皆排日事項ヲ掲ケ
サルモノナク小學兒童ヨリ排日思想ヲ養成
スルカ故ニ今ヤ排日思想ハ一ノ國民性ヲ成
スニ到レルモノナリ

今次ノ陸軍ノ行動ハ頗ル機敏ニシテ大ニ感
心セリ然ルニ陸軍大臣ハ奉天ノ占領ハ軍略
上必要ナルカ如ク謂ハレタルモ滿洲鐵道保
護ノ必要ニ出ツルモノニアラスヤ其ノ後同
大臣ノ説明ニ依レハ保障占領ヲ爲セリトノ

コトナリ陸軍當局ノ思想斯ノ如ク淺薄ナル
ヲ頗ル遺憾トス今次ノ事變ハ二十二年
前ヨリノ排日教育ノ必然ノ結果ニシテ王正廷
カ學生ニ襲撃セラレタルカ如キ排日熱ノ餘勢
カ偶内部ニ向ツテ爆發シタルニ過キス因果
ノ關係ニシテ明瞭トナラハ歐米人ハ反テ我
國ニ同情スルニ至ルヘシ我實業界ノ人々モ
近來ノ支那ノ排日抗日ノ運動ニ對シテハ之
ヲ根本的ニ芟除セムコトヲ切望セリ支那ノ
所謂國恥地圖ノ説明文ハ實ニ名文ニシテ青

年ノ敵愾心ヲ振作スルニ大ニ力アリ故ニ將
來滿洲ニ一國ノ形成ヲ見ルコトアルモ此ノ
反日ノ思想ハ己マサルヘキヲ憂フナホレオ
ン一世ハ攻メテスペインニ入りシモ到ル所
是レ敵ナリシ爲遂ニ軍ヲ還シタリト云フニ
アラスヤ我國ハ支那ニ對シテ拔根塞源ノ策
ヲ講スルコト肝要ナリ然ラサレハ遂ニ枕ヲ
高クスヘカラス支那ノ排外教育ノ如キハ歐
洲ニモ其ノ例ナク嘗テ佛蘭西カ獨逸ニ對シ
テ一時此ノ種ノ教育ヲ爲シタルコトアルモ

暫ニシテ自ラ之ヲ廢セリ日本ハ宜シク支那
ノ現状ニ即シテ對策ヲ講セサルヘカラスト
考フ

金子顧問官 時間切迫セル故種々ノ質問ハ之

ヲ他日ニ譲リ唯一ツ御尋シタシ陸軍大臣ヨ
リノ御説明ニ依リテ始メテ關東軍ノ行動ヲ
知リタルカ「アドバタイザ」紙ニハ少シモ
陸軍ノコトヲ載セス支那兵ノ攻撃ニ對シ自
衛上反撃ヲ加ヘタルモノニ過サルコトノ說
明一モナシ日本ハ何時モ外國ニ於ケル會議

ニ於テハ支那ノ爲ニ不利益ヲ受ク二十二日
及二十三日ノ瑞西ノ新聞ニ依レハ芳澤大使
ハ日本ノ今次ノ軍事行動ハ日本ノ一部ノ團
體ノ運動ニ基クモノニシテ日本政府ノ意思
ニ非スト述ヘタリトアリテ支那ノ鐵道破壊
ニ對スル正當防衛ナルコトハ一言モ書キ居
ラス我國ハ「ジユネーヴ」ニ於テ最初ヨリ立チ
遅レタリト考フ二十三日ノ理事會ハ日本ニ
對シテ速ニ撤兵セヨト決議シ而モ之ヲ聯盟
外ニ在ル米國ニ通知セルハ何事ソヤ日本代

表ハ何故斯カル決議ニ對シテ反對ノ投票ヲ
爲ササリシヤ理事會ヨリノ通牒ニ依レハ全
會一致ヲ以テ之ヲ可決シタリト云フニアラ
スヤ外務大臣ハ此ノ三ヶ條ノ決議ニ賛成シ
テ可ナリト訓令セラレタルヤ否ヤ伺ヒタシ
幣原外務大臣 支那ノ排日教育ハ日支葛藤ノ
根本問題ナリト考フ日本ノ今次ノ事變ニ關
スル言明ノ遅レタルハ軍ノ行動不明ナリシ
カ爲ナリ二十二日ノ聯盟理事會ニ於テハ速
ニ撤兵セヨトハ勸告セス人民ノ生命財産ニ

害ナクシテ撤兵シ得ルカ如キ方法ヲ日支共
同シテ探セト云フ意味ナリ

金子顧問官 芳澤大使ノ理事會ノ決議ニ對ス
ル態度ニ付テハ訓令セラレタルヤ

幣原外務大臣 芳澤大使ニ對シテハ一々當方
ヨリ訓令セス自己ノ意見ヲ以テ棄權

(abstention) ヲ爲シタルモノナリ
金子顧問官 然ラハ理事會ノ決議ハ全會一致

ナルヲ要スルニ拘ラス聯盟カ之ヲ米國ニ通
知スルコトハ許スヘカラサルコトナリト考

フ芳澤大使ニ對シ投票ニ加ハル勿レト訓令
セサリシヤ

幣原外務大臣 左様ノ訓令ヲ爲シタルコトナ
シ

金子顧問官 米國政府ヨリ滿洲事變ニ對スル

態度ニ付希望ヲ述ヘ來レルニ對シ外務大臣
ハ禮狀ヲ出サレタリトノコトナルカ事實ナ

リヤ

幣原外務大臣 別ニ禮狀ヲ出シタルコトナシ

米國ヘノ回答ニ於テ唯米國カ其ノ公平ナル

態度ヲ執レルコトヲ深く諒トスル旨ヲ述ヘ
タルノミ

久保田顧問官 本件ハ頗ル重大問題ナルカ故
ニ時間等ニ拘ルヘキモノニ非スト考フルカ
國務大臣ハ午後モ引續キ出席セラルルコト
ヲ得ルヤヲ議長ニ伺ヒタシ本官モ是非簡單
ニ質問シタキ事項アリ

倉富議長 質問ハ最早終レルヤ
富井顧問官 尚濟マス
金子顧問官 尚質問シタシ

倉富議長 只今御聞及ノ通ニ付外務大臣ニ於
テ都合ノ許ス限リ引續キ質問ニ應セラレタ
シ

久保田顧問官 此ノ事變ハ突發ノ如ク見ユルモ
實ハ突發ニ非ス只此ノ機會ニ於テ勃發シタ
ルノミ而シテ日本ノ威信ハ關東軍ノ果敢ナ
ル行動ニ依リテ始メテ保タレタリ從來幾多
ノ外交上ノ懸案ハ何日ニ到ラハ解決スヘキ
ヤ何日迄支那ヨリ先手ヲ打タレテ居サルハ
カラサルカ今次始メテ日本ノ希望スル解決

ノ機會カ見出サレタルナリ政府ノ態度トシ
テ今暫ク支那政局ノ推移ヲ靜觀スルハ可ナ
ラムモ苟モ國家ノ體面ヲ瀆シ禍根ヲ將來ニ
殘ス如キコトハ切ニ戒慎セサルハカラスト
考フ唯米國又ハ國際聯盟ノ關係ノミニ囚ハ
レ深ク將來ノ事ヲ考慮セスシテ撤兵セムカ
國運ノ消長ニ關スヘシ遺憾ナキ様處置セラ
レムコトヲ望ム尚此ノ際事件當初ニ於ケル
軍部ノ機敏ナル行爲ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ
表ス

黒田顧問官 日支間ニハ逐年多數ノ案件ヲ堆
積スルノミニシテ近年ハ殆ト解決ノ見込付
カサリシカ今ヤ我軍隊ノ力ニ依リ奉天ヲ抑
ヘテ一氣ニ解決ニ入ラムトスルモ支那ノ事
相ハ朝ニ夕ヲ圖ラス而モ支那ノ侮日排日運
動ハ益々深刻ト爲ル模様アリ總理大臣ハ之ニ
對シテ如何ナル考ヲ有セラルルヤ伺ヒタシ
石井顧問官 本官モ我陸軍ノ機宜ヲ得タル機
敏ノ行動ニ對スル感謝ノ念ハ同僚ト同様ナ
リ唯爰ニ一ノ疑ヲ存スルハ先刻陸軍大臣ノ

話ノ中ニ在リタル通朝鮮軍ヨリ編成セラレ
タル混成部隊ヲ朝鮮軍司令官ノ獨斷ヲ以テ
滿洲ニ送りタルコトナリ本官ハ必要ニ依リ
朝鮮ヨリ滿洲へ軍隊ヲ動カスコト夫レ自體
ハ適當ノ事ナリト信スルモ國境ヲ越エテ出
兵スルコトハ簡單ナル問題ニ非ス右ハ果シ
テ獨斷專行ヲ以テ行ハレタルモノナリヤ果
シテ然リトセハ其ノ善後措置如何大權干犯
問題ニモ關係ヲ有スヘキ重大事ナリト思料
スルヲ以テ此ノ點ヲ伺ヒタシ

若槻内閣總理大臣 久保田顧問官ヨリ事態ヲ
靜觀シ責任者ト交渉スル様ニ用意セヨトノ
御言葉アリタルカ本官モ同様ニ考ヘ居レリ
此ノ際ハ單ニ今次ノ事件ノミニ付考ハス對
支問題ヲ根本的ニ解決セヨトノ御意見モ亦
全ク同感ニシテ既ニ陳述書ニ於テ陳述シタ
ル通ナリ此ノ際ハ根本的ニ問題ノ原因ヲ絶
ツ様ニシタシト考フ

南陸軍大臣 石井顧問官ノ御質問ニ御答ヘス
朝鮮軍司令官ハ其ノ配下ニ屬スル混成部隊

ヲ十九日午前ヲ以テ出發セシメ國境ニ於テ
待機セシメタリ然ルニ二十一日ニ至リ第二
師團カ急遽奉天ニ移動シタルニ依リ若シ其
ノ空虚ヲ支那軍ニ攻撃セラルルトキハ由々
シキ大事ナリト考ヘ且豫テ滿洲ニ事變起ル
トキハ直ニ朝鮮軍ヨリ混成部隊ヲ組織シテ
急ニ赴カシメ關東軍ヲ援助セシムル用兵上
ノ計畫アルニ顧ミ遂ニ同司令官ノ獨斷ヲ以
テ之ヲ滿洲ニ出發セシメタルモノナリ參謀
總長ニ於テハ當時ノ情況ヨリ判斷シテ之ヲ

適當ナリト認メ上奏シタルモノナリ

倉富議長 時刻モ大分移リタルニ付尚御質問

アラハ次ノ水曜日ニ於テセラレタシ

久保田顧問官 尚一言質問ヲ許サレタシ内閣

ハ何故本件ノ如キ事案決定前ニ於テ之ヲ本

院ニ報告セラレサリシヤ

若槻内閣總理大臣 何事モ決定前ニ報告ヲ要

スルモノトセハ政務ノ運行出來難シ

久保田顧問官 樞密院議長ト内閣總理大臣ト

ハ陛下ノ左右ニアリテ輔弼シ奉ルヘキ地位

ニ在リ斯ノ如ク重要ナル地位ヲ占ムル者ハ
何レモ國家ノ重大ナル時局ニ際シテハ案件
ノ内容ヲ熟知セサルハカラサルハ言ヲ俟タ
サル所ナリ此ノ點ニ關シ總理大臣ハ如何ナ
ル考ヲ有セラルルヤ

若槻内閣總理大臣 樞密院カ重要ナル國家機
關タルコトハ本官モ能ク之ヲ了知セリ從テ
我外交ノ方針等ニ付樞密院ニ對シ説明ヲ爲
スコトヲ毫モ躊躇スルモノニアラス唯政府
ハ常ニ御裁可ヲ經テ政務ヲ執行スヘキ地位

ニ在ルモノニシテ特ニ外交上ノ重要案件ノ
如キ時ヲ費スカ爲ニ機宜ヲ失フコトアルハ
カラスト考フルノミ

久保田顧問官 當局大臣ハ何カ故ニ斯ル外交
上軍事上ノ問題ヲ樞密院ニ於テ説明セラル
ルヤ是レ何等權限關係ニ基クモノト謂フヘ
カラス唯國家ノ重大問題ナルカ故ニ國政上
重要ノ地位ニアル本院ニ於テ説明ヲ聽取ス
ルモノナリ既ニ事ヲ決定シ實行シタル後ニ
於テ説明スルモ并ハ只一ノ講釋ニ過キス須

ラク之ヲ事前ニスヘキナリ樞密院議長ト内
 閣總理大臣トハ陛下ノ左右ニ在リテ輔翼シ
 奉ルヘキ職責ヲ有スル者ナレハ其ノ意思ハ
 朝夕疏通シ居ラサルヘカラスト考フ故ニ本
 官ハ敢テ之ヲ進言スルナリ
 倉富議長 本日ハ之ニテ閉會ス

(午後一時四十分閉會)

御批准書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル
 日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
 昭和五年十一月十五日「エテイオピア」國「アデ
 イス・アベバ」ニ於テ帝國全權委員ガ「エテイオピ
 ア」國全權委員ト共ニ署名調印シタル日本國「エ
 テイオピア」國間修好通商條約ヲ閱覽點檢シ之
 ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百九十一年昭和六年
 二月 日 二於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ

鈐セシム

御名 國璽

外務大臣

日本國「エテイオピア」國間修好通商條約

日本國皇帝陛下及

「エタイオピア」國皇帝「ハイレ、セラッシエ」第一世陛下ハ

兩國ノ間ニ存在スル友好關係ヲ鞏固ナラシメ且其ノ通商關係ヲ發展セシムルノ希望ニ促サレ

修好通商條約ヲ締結スルコトニ決シ

之ガ爲左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

日本國皇帝陛下

特命全權大使吉田伊三郎

「エタイオピア」國皇帝陛下

外務總務長官「ベララン、グタ、ヘルイ、ウォルド、セラッシエ」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸規定ヲ協定セリ

第一條

各締約國ハ他方ニ駐劄スル外交代表者ヲ派遣スルコトヲ得ベシ

第二條

各締約國ノ國民及產物ハ居住、通商及關稅ニ關シ最惠國ノ國民及產物ニ現ニ許與セラレ又ハ將來

許與セラルルコトアルベキ所ト同一ノ制度及同一ノ利益ヲ他方ニ於テ相互ニ引續キ享有スベシ

第三條

本條約ハ成ルベク速ニ批准セラルベク且批准書ノ交換ハ「バリ」ニ於テ行ハルベシ
本條約ハ批准書ノ交換後一月ニシテ實施セラルベク且五年間引續キ效力ヲ有スベシ
締約國ノ何レモ本條約ノ效力ヲ消滅セシムルノ意思ヲ右五年ノ期間ノ滿了ノ一年前ニ通告セザル
トキハ本條約ハ締約國ノ何レカノ一方ガ之ガ廢棄ヲ通告シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了ニ至ル迄
引續キ效力ヲ有スベシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約ニ署名調印セリ
昭和五年十一月十五日即チ「エティオピア」曆千九百二十三年「ヘッダー」五日「アディス・アベバ」
ニ於テ本書ニ通テ作成ス

吉 田 伊 三 郎 (印)
ヘルイ、ウオールド、セラッシエ (印)

TRAITÉ D'AMITIÉ
ET DE
COMMERCE
ENTRE
LE JAPON ET L'ÉTHIOPIE

Sa Majesté l'Empereur du JAPON

et

Sa Majesté l'Empereur d'ETHIOPIE,

Hayle Selassie Premier,

Animés du désir de resserrer les relations amicales existant entre Leurs Etats et de développer leurs rapports commerciaux,

Ont décidé de conclure un Traité d'Amitié et de Commerce, et

Ont nommé à cet effet pour Leurs Plénipotentiaires, savoir:

Sa Majesté l'Empereur du JAPON:

Son Excellence Monsieur Isaburo Yoshida, Ambassadeur Extraordinaire et Plénipotentiaire,

Sa Majesté l'Empereur d'ETHIOPIE:

Son Excellence le Belathen Gueta Herouy Wolde Selassie, Directeur Général du Ministère des Affaires Etrangères,

Lesquels, après s'être communiqué leurs pleins pouvoirs, trouvés en bonne et due forme, sont convenus des dispositions suivantes:

Article I.

Chacune des Hautes Parties Contractantes pourra envoyer des représentants diplomatiques accrédités auprès de l'Autre.

Article II.

Les ressortissants et les produits de Chacune des Hautes Parties Contractantes continueront à jouir réciproquement

dans l'Autre du même régime et des mêmes avantages, en matière d'établissement, de commerce et de douane, que ceux qui sont actuellement accordés ou qui seraient accordés dans l'avenir aux ressortissants et aux produits de la nation la plus favorisée.

Article III.

Le présent Traité sera ratifié aussitôt que faire se pourra et l'échange des ratifications aura lieu à Paris.

Il entrera en vigueur un mois après l'échange des instruments de ratification et restera exécutoire pendant cinq ans.

Dans le cas où aucune des Hautes Parties Contractantes n'aurait notifié, un an avant la fin de la dite période de cinq années, Son intention d'en faire cesser les effets, le présent Traité demeurera obligatoire jusqu'à l'expiration d'une année à partir du jour où l'Une ou l'Autre des Hautes Parties Contractantes l'aura dénoncé.

En foi de quoi les Plénipotentiaires respectifs ont signé le présent Traité et y ont apposé Leurs sceaux.

Fait en double exemplaire à Addis-Abeba le quinzième jour du onzième mois de la cinquième année de Showa, correspondant au 5 Heddar de l'an mil neuf cent vingt trois d'après le calendrier éthiopien.

(L. S.) Isaburo Yoshida

(L. S.) Herouy Wolde Selassie

御批准案

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル
日本國皇帝(御名)此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕昭和五年五月二日「ベルリン」ニ於テ帝國全權
委員ガリスニア國全權委員ト共ニ署名調印
シタル日本國「リスニア」國間通商航海條約ヲ
閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百九十一年昭和六年

月 日 二於テ親ラ名ヲ署シ

璽ヲ鈐セシム

御名 國璽

外務大臣

日本國「リスアニア」國間通商航海條約

日本國「ロシアニア」國間通商航海條約

日本國皇帝陛下及「ロシアニア」共和國大統領ハ幸ニ兩國間ニ存在スル友好親善ノ關係ヲ鞏固ナ
ラシメ及其ノ相互的通商關係ヲ容易ナラシメ且之ヲ擴張センコトヲ欲シ之ガ爲通商航海條約ヲ締
結スルコトニ決シ右目的ヲ以テ左ノ如ク其ノ全權委員ヲ任命セリ

日本國皇帝陛下

獨逸國駐劄特命全權大使長岡春一

「ロシアニア」共和國大統領

獨逸國駐劄「ロシアニア」共和國特命全權公使「ヴンセスラス、シジカウスカス」

右各全權委員ハ互ニ其ノ全權委任狀ヲ示シ之ガ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ一切ノ外國人ニ對シ均シク適用セララルル旅券、警察、公安及衛生
ニ關スル法令及規則ニ從フ限リ他方ノ領域内ニ到リ及滞在スルノ完全ナル自由ヲ有スベク且右他
方ノ法令ニ從フニ於テハ

一 旅行及居住ニ關スル一切ノ事項ニ付内國ノ臣民又ハ人民ト一切ノ點ニ於テ同一ノ地歩ニ置カ
ルベシ

二 右臣民又ハ人民ハ自ラ行フト代理人ニ依リテ行フト又單獨ニテ行フト外國人又ハ内
國ノ臣民若ハ人民ト共同シテ行フト又其ノ商業及製造業ヲ營ミ並ニ適法ナル商業ノ目的
物タル一切ノ種類ノ商品ヲ取引スルノ權利ヲ内國ノ臣民又ハ人民ト均シク有スベシ

三 右臣民又ハ人民ハ其ノ産業、生業、職業、修學及調査ヲ行フトニ關スル一切ノ事項ニ付最
惠國ノ臣民又ハ人民ト一切ノ點ニ於テ同一ノ地歩ニ置カルベシ

四 右臣民又ハ人民ハ其ノ必要トスルコトアルベキ家屋、製造所、倉庫、店舗及場所ヲ所有シ又
ハ賃借シテ使用スルコト並ニ居住、商業、産業及他ノ適法ナル目的ヲ以テ土地ヲ賃借スルコト
ヲ最惠國ノ臣民又ハ人民ト同様ニ許サルベシ

五 右臣民又ハ人民ハ當該國ノ法令ガ別國ノ臣民又ハ人民ニ取得シ及占有スルコトヲ許シ又ハ許
スベキ各種ノ動産又ハ不動産ヲ取得シ及占有スルコト相互條件ノ下ニ完全ニ自由タルベシ但シ
右法令ニ規定セラルル條件及制限ニ常ニ從フベキモノトス右臣民又ハ人民ハ内國ノ臣民又ハ人
民ニ付設定セラレ又ハ設定セラルベキ所ト同一ノ條件ノ下ニ右動産又ハ不動産ヲ賣買、交換、

贈與、婚姻、遺言又ハ何レカノ他ノ方法ニ依リ處分スルコトヲ得右臣民又ハ人民ハ又當該國ノ
法令ニ從フトキハ其ノ財産ノ賣得金及其ノ動産一般ヲ同様ノ場合ニ當該國ノ臣民又ハ人民ガ課
セラルベキ所ト異ルカ又ハ之ヨリ高キ税金ヲ外國人タルノ故ヲ以テ課セラルルコトナクシテ自
由ニ輸出スルコトヲ許サルベシ

六 右臣民又ハ人民ハ其ノ身體及財産ニ付恆常且完全ナル保護及保障ヲ享有スベク、其ノ請求及
權利ノ主張及擁護ノ爲司法裁判所及他ノ裁判所ニ於テ自由且容易ニ訴訟スルコトヲ得ベク、右
司法裁判所及他ノ裁判所ニ於テ自己ヲ代表セシムル爲代理人及辯護人ヲ選擇使用スルノ完全ナ
ル自由ヲ内國ノ臣民又ハ人民ト均シク有スベク且一般ニ司法ニ關スル一切ノ事項ニ付内國ノ臣
民又ハ人民ト同一ノ權利及特權ヲ有スベシ

七 右臣民又ハ人民ハ内國ノ臣民若ハ人民又ハ最惠國ノ臣民若ハ人民ニ依リ支拂ハレ又ハ支拂ハ
ルルコトアルベキ所ト異ルカ又ハ之ヨリ高キ税金、手数料、課金又ハ貢納ヲ其ノ種類ノ如何ヲ
問ハズ支拂フコトヲ強制セラルルコトナカルベシ

第二條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ニシテ他方ノ領域内ニ在ルモノハ陸軍、海軍、空軍、護國軍又ハ民

第七條

締約國ノ一方ノ領域ノ產物又ハ製造品タル物品ニシテ他方ノ領域ニ輸出セララルモノハ別國ニ輸出セララル同様ノ物品ニ付支拂ハルル所ト異ルカ又ハ之ヨリ高キ課金ヲ輸出ニ當リ課セララルコトナカルベシ

第八條

締約國ノ何レカノ一方ノ領域ノ產物又ハ製造品タル物品ニ付テハ各締約國ハ他方ノ領域ヨリノ輸入ニ對シ又ハ右領域ヘノ輸出ニ對シ別國ヨリ輸入セラレ又ハ別國ニ輸出セララル同様ノ物品ニ對シ均シク適用セラレザル禁止又ハ制限ヲ其ノ種類ノ如何ニ拘ラズ存置シ又ハ加フルコトナカルベシ右規定ハ國、人又ハ動物若ハ植物ノ安全ヲ保障スルノ目的ヲ以テ加ヘラルル衛生上又ハ他ノ制限又ハ禁止ニ適用セララルコトナシ

第九條

締約國ノ一方ノ領域ノ產物又ハ製造品タル物品ニシテ他方ノ領域ヲ同國ノ法令ニ從ヒ通過スルモノハ右物品ガ直過スルト通過中荷卸セラレ、庫入セラレ及再荷積セララルトワ同ハズ一切ノ通過稅ヲ相互ニ免除セララルベシ

第十條

國、地方廳又ハ團體ノ利益ノ爲ニ課セララル内國稅ニシテ締約國ノ何レカノ一方ノ領域内ニ於ケル何レカノ物品ノ生産、製造又ハ消費ニ影響シ又ハ影響スルコトアルベキモノハ何等ノ理由ヲ以テスルモ他方ノ領域ノ產物又ハ製造品タル物品ニ對シ内國產ノ同様ノ物品ニ對スルヨリモ高キカ又ハ重キ負擔タルコトヲ得ザルベシ

締約國ノ何レカノ一方ノ領域ノ產物又ハ製造品ニシテ他方ノ領域内ニ輸入セラレ且庫入又ハ通過ヲ目的トスルモノハ何等ノ内國稅ヲモ課セララルコトナカルベシ

第十一條

締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民タル商工業者ハ他方ノ領域内ニ於テ自ラ行フト又ハ旅商ニ依リテ行フトトワ同ハズ見本ヲ攜帶シ又ハ攜帶セズシテ買入ヲ爲シ又ハ註文ヲ取集ムルコトヲ得又右商工業者及其ノ旅商ハ斯ク買入ヲ爲シ及註文ヲ取集ムルニ當リ課稅及便益ニ關シ最惠國待遇ヲ享有スベシ

前記ノ目的ヲ以テ見本トシテ輸入セララル物品ハ其ノ再輸出セララルコト又ハ法令ニ依リ認めラレタル期間内ニ再輸出セラレザル場合ニ成規ノ課金ノ支拂ハルルコトヲ確保スル爲メ制定セラレタ

ル税關ノ規則及手續ニ從フニ於テハ各締約國ニ於テ一時無税輸入ヲ許可セラルベシ但シ右特權ハ物品ニシテ其ノ數量若ハ價格ニ徴シ見本ト認ムルコト能ハザルモノ又ハ其ノ性質上再輸出ノ際同一物ナルコトヲ認識スルコト能ハザルモノニ及ゾコトナカルベシ見本ガ無税輸入ヲ許可セラルベキモノナリヤ否ヤノ問題ノ決定ハ何レノ場合ニ於テモ輸入ノ行ハルル地ノ權限アル官憲ノ權内ニ專屬ス

本條ノ規定ハ行商ニ對シ、呼賣ニ對シ又ハ商業若ハ工業ヲ營マザル者ヨリノ註文ヲ求ムルコトニ對シ適用セラレザルベク右事項ニ關シテハ各締約國ハ立法ノ完全ナル自由ヲ留保ス

第十二條

締約國ノ何レカノ一方ノ税關官憲ガ輸出ノ際前條ニ掲ゲラルル見本上ニ施シタル記號、極印又ハ印章及右税關官憲ノ發給ニ係リ右見本ニ付テノ詳細ナル説明ヲ記載セル公ノ證明アル見本日録ハ右見本ノ同一物ナルコトヲ確證スルモノトシテ他方ノ税關官吏ニ依リ相互的ニ承認セラルベシ但シ締約國ノ何レカノ一方ノ税關官憲ハ右見本ニ補足的記號ヲ施スノ必要アリト認ムルコトアルベキ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得

第十三條

旅商ノ要スルコトアルベキ證明書ヲ發給スルノ權限アリト締約國ノ一方ノ領域内ニ於テ認メララル機關ハ他方ニ依リ右事項ニ關シ權限アル機關トシテ承認セラルベシ
各締約國ハ右證明書ヲ發給スルノ權限アル機關及所要ノ様式ヲ他方ニ通知スベシ

第十四條

株式會社並ニ商業、産業及金融業ニ關スル他ノ會社及組合（保險會社ヲ含ム）ニシテ締約國ノ一方ノ領域内ニ住所ヲ有シ且該締約國ノ現行法令ニ從ヒ適法ニ存在スルモノハ他方ノ領域内ニ於テ適法ニ存在スルモノト認メラルベシ
本條約ノ第一條第四號、第五號及第六號並ニ第二條及第三條ノ規定ハ其ノ法人ニ適用セラレ得ル限リ前記會社及組合ニ適用セララルベシ
本條約ニ於テ明ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外右會社及組合ハ最惠國ノ同様ノ會社及組合ニ許與セラレ又ハ許與セラルルコトアルベキ所ト同一ノ權利、特權及恩典（商業、産業又ハ保險業ヲ營ムコトノ許可ニ關スルモノヲ含ム）ヲ他方ノ締約國ノ領域内ニ於テ一切ノ點ニ於テ享有スベシ

第十五條

締約國ノ沿岸貿易及其ノ領水ニ於ケル漁業ハ本條約ノ規定ヨリ除外セラレ且夫々日本國及「リスアニア」國ノ法令ニ依リ規律セラルベシ

第十六條

各締約國ノ通商、航海及産業ガ一切ノ點ニ於テ最惠國ノ地歩ニ置カルベシトハ締約國ノ意嚮ナルヲ以テ締約國ハ本條約ニ於テ明ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外通商、産業及航海ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ締約國ノ何レカノ一方ガ別國ノ船舶、臣民又ハ人民ニ現ニ許與シ又ハ今後許與スルコトアルベキ恩典、特權又ハ免除ハ他方ノ締約國ノ船舶、臣民又ハ人民ニ即時ニ且無條件ニテ及ボサルベキコトヲ約ス

第十七條

本條約ノ規定ハ左記ニ適用セラレザルベシ

- (一) 國境ノ兩側ノ限ラレタル地帯内ニ於テ専ラ國境貿易ヲ容易ナラシムル爲締約國ノ何レカノ一方ニ依リ隣接國ニ許與セラレ又ハ許與セラルルコトアルベキ關稅上ノ殊遇但シ該殊遇ガ別國ニ及ボサレザル場合ニ限ル

- (二) 締約國ノ内國人漁業ノ產物ニ與ヘラレ若ハ與ヘラルルコトアルベキ待遇又ハ日本國ノ附近ニ在ル外國領水ニ於テ取得セラルル魚類及他ノ水產物ニ關シ日本國ニ依リ許與セラルル關稅上ノ特別恩典

- (三) 二重課稅ヲ避クル爲協定ニ依リ第三國ニ許與セラレ又ハ許與セラルルコトアルベキ恩典
- (四) 「リスアニア」國ニ依リ「バルティク」共和國（「ラトヴィア」國及「エストニア」國）ニ許與セラレ又ハ許與セラルルコトアルベキ恩典但シ該恩典ガ別國ニ及ボサレザル場合ニ限ル

第十八條

本條約ノ規定ハ締約國ノ何レカノ一方ニ屬シ又ハ其ノ管治スル一切ノ地域及屬地ニ適用セラルベシ

第十九條

本條約ハ批准セラルベク且其ノ批准書ハ成ルベク速ニ「ベルリン」ニ於テ交換セラルベシ本條約ハ批准書交換ノ日ノ後十日目ヨリ實施セラルベク且三年間引續キ效力ヲ有スベシ締約國ノ何レノ一方モ本條約ヲ終了セシムルノ意思ヲ右期間ノ滿了ノ六月前ニ他方ニ通告セザル場合ニハ本條約ハ締約國ノ何レカノ一方ガ之ガ廢棄ノ通告ヲ爲シタル日ヨリ六月ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ効

カラ有スベシ

一三

右證據トシテ各全權委員ハ英吉利語ヲ以テセル本條約ニ署名調印セリ
昭和五年五月二日即チ西曆千九百三十年五月二日「ベルリン」ニ於テ本書ニ通ヲ作成ス

長 岡 春 一 (印)
ヴェンセスラス、シジカウスカス (印)

TREATY
OF
COMMERCE AND NAVIGATION BETWEEN
JAPAN AND LITHUANIA.

**TREATY OF COMMERCE AND NAVIGATION
BETWEEN JAPAN AND LITHUANIA.**

His Majesty the Emperor of Japan and the President of the Lithuanian Republic, being desirous to strengthen the relations of amity and good understanding which happily exist between the two nations and to facilitate and extend their reciprocal commercial relations, have resolved to conclude a Treaty of Commerce and Navigation for that purpose, and to that end have named their Plenipotentiaries, that is to say:

His Majesty the Emperor of Japan:

His Excellency Monsieur Harukazu Nagaoka, His Imperial Majesty's Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary to Germany; and

The President of the Lithuanian Republic:

His Excellency Monsieur Venceslas Sidzikauskas, Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary of the Lithuanian Republic to Germany;

Who, after having communicated to each other their respective Full Powers, found to be in good and due form, have agreed upon the following articles:

Article I.

The subjects or citizens of each of the High Contracting Parties shall have full liberty to enter and sojourn in the territories of the other, subject only to the laws and regulations relating to passports, police, public safety and sanitation, which are applicable to all foreigners alike; and, conforming themselves to the laws of the country:—

1. Shall, in all that relates to travel and residence, be placed in all respects on the same footing as native subjects or citizens.

2. They shall have the right, equally with native subjects or citizens, to carry on their commerce and manufacture, and to trade in all kinds of merchandise of lawful commerce, either in person or by agents, singly or in partnerships with foreigners or native subjects or citizens.

3. They shall in all that relates to the pursuit of their industries, callings, professions, educational studies and investigations be placed in all respects on the same footing as the subjects or citizens of the most favoured nation.

4. They shall be permitted to own or hire and occupy houses, manufactories, warehouses, shops and premises which may be necessary for them, and to lease land for residential, commercial, industrial and other lawful purposes, in the same manner as the subjects or citizens of the most favoured nation.

5. They shall, on condition of reciprocity, be at full liberty to acquire and possess every description of property,

movable or immovable, which the laws of the country permit or shall permit the subjects or citizens of any other foreign country to acquire and possess, subject always to the conditions and limitations prescribed in such laws. They may dispose of the same by sale, exchange, gift, marriage, testament or in any other manner, under the same conditions which are or shall be established with regard to native subjects or citizens. They shall also be permitted, on compliance with the laws of the country, freely to export the proceeds of the sale of their property and their goods in general without being subjected as foreigners to other or higher duties than those to which subjects or citizens of the country would be liable under similar circumstances.

6. They shall enjoy constant and complete protection and security for their persons and property; shall have free and easy access to the Courts of Justice and other tribunals in pursuit and defence of their claims and rights; and shall have full liberty, equally with native subjects or citizens, to choose and employ lawyers and advocates to represent them before such Courts and tribunals; and generally shall have the same rights and privileges as native subjects or citizens in all that concerns the administration of justice.

7. They shall not be compelled to pay taxes, fees, charges or contributions of any kind whatever, other or higher than those which are or may be paid by native subjects or citizens or the subjects or citizens of the most favoured nation.

Article II.

The subjects or citizens of each of the High Contracting Parties in the territories of the other shall be exempted from all compulsory military services, whether in the army, navy, air force, national guard or militia; from all contributions imposed in lieu of personal service; and from all forced loans and military requisitions or contributions unless imposed on them equally with native subjects or citizens as owners, lessees or occupiers of immovable property.

In the above respects the subjects or citizens of each of the High Contracting Parties shall not be accorded in the territories of the other less favourable treatment than that which is or may be accorded to the subjects or citizens of the most favoured nation.

Article III.

The dwellings, warehouses, manufactories and shops of the subjects or citizens of each of the High Contracting Parties in the territories of the other, and all premises appertaining thereto used for lawful purposes, shall be respected. It shall not be allowable to proceed to make a domiciliary visit to, or a search of, any such buildings and premises, or to examine or inspect books, papers or accounts, except under the conditions and with the forms prescribed by the laws for native subjects or citizens.

Article IV.

Each of the High Contracting Parties may appoint Con-

suls-General, Consuls, Vice-Consuls and Consular Agents in all the ports, cities and places of the other, except in those where it may not be convenient to recognize such officers. This exception, however, shall not be made in regard to one of the High Contracting Parties without being made likewise in regard to all other Powers.

Such Consuls-General, Consuls, Vice-Consuls and Consular Agents, having received exequaturs or other sufficient authorisations from the Government of the country to which they are appointed, shall, on condition of reciprocity, have the right to exercise their functions, and to enjoy the privileges, exemptions and immunities which are or may be granted to the Consular officers of the most favoured nation. The Government issuing exequaturs or other authorisations has the right in its discretion to cancel the same on explaining the reasons for which it thought proper to do so.

Article V.

There shall be between the territories of the two High Contracting Parties reciprocal freedom of commerce and navigation.

The subjects or citizens of either of the High Contracting Parties shall have liberty freely to come with their ships and cargoes to all places, ports and rivers in the territories of the other, which are or may hereafter be opened to foreign commerce, and, conforming themselves to the laws of the country to which they thus come, shall enjoy the same rights, privileges, liberties, favours, immunities and exemptions in

matters of commerce and navigation as are or may be enjoyed by native subjects or citizens.

Article VI.

Articles, the produce or manufacture of the territories of one of the High Contracting Parties, upon importation into the territories of the other, from whatever place arriving, shall enjoy the lowest rates of customs duty and other charges applicable to similar articles of any other foreign origin.

Article VII.

Articles, the produce or manufacture of the territories of one of the High Contracting Parties, exported to the territories of the other, shall not be subjected on export to other or higher charges than those paid on the like articles exported to any other foreign country.

Article VIII.

No prohibition or restriction of any kind whatever shall be maintained or imposed by either of the High Contracting Parties on the import from or export to the territories of the other, of any article, the produce or manufacture of the territories of either of the High Contracting Parties, which shall not equally extend to the like article imported from or exported to any other country. This provision is not applicable to the sanitary or other restrictions or prohibitions imposed with the object of securing the safety of the State, of individuals or of animals or plants.

Article IX.

Articles, the produce or manufacture of the territories of one of the High Contracting Parties, passing in transit through the territories of the other in conformity with the laws of the country, shall be reciprocally free from all transit duties, whether they pass direct, or whether during transit they are unloaded, warehoused and reloaded.

Article X.

No internal duties levied for the benefit of the State, local authorities or corporations which affect or may affect, the production, manufacture or consumption of any article in the territories of either of the High Contracting Parties shall for any reason be a higher or more burdensome charge on articles, the produce or manufacture of the territories of the other, than on similar articles of native origin.

The produce or manufacture of the territories of either of the High Contracting Parties imported into the territories of the other, and intended for warehousing or transit, shall not be subjected to any internal duty.

Article XI.

Merchants and manufacturers, subjects or citizens of one of the High Contracting Parties, may, in the territories of the other, either personally or by means of commercial travellers make purchases or collect orders, with or without samples, and such merchants, manufacturers, and their commercial

travellers, while so making purchases and collecting orders, shall, in the matter of taxation and facilities, enjoy the most-favoured-nation treatment.

Articles imported as samples for the purposes above mentioned shall, in each country, be temporarily admitted free of duty on compliance with the Customs regulations and formalities established to assure their re-exportation or the payment of the prescribed charges if not re-exported within the period allowed by law. But the foregoing privilege shall not extend to articles which, owing to their quantity or value, cannot be considered as samples, or which owing to their nature, could not be identified upon re-exportation. The determination of the question of qualification of samples for duty-free admission rests in all cases exclusively with the competent authorities of the place where the importation is effected.

The stipulations of this Article shall not apply to itinerant trading, or to hawking, or to the soliciting of orders from persons not engaged in trade or industry, on which subject each of the High Contracting Parties reserves full freedom of legislation.

Article XII.

Marks, stamps or seals placed upon the samples mentioned in the preceding Article by the Customs authorities of either High Contracting Party at the time of exportation, and any officially attested list of such samples containing a full description thereof issued by them, shall be reciprocally accepted

by the Customs officials of the other as establishing their identity. The Customs authorities of either High Contracting Party may, however, affix a supplementary mark to such samples in special cases where they may think this precaution necessary.

Article XIII.

Any authorities recognized in the territories of one of the High Contracting Parties as competent for the issue of such certificates as may be required for commercial travellers shall be accepted by the other as competent authorities in that regard.

Each of the Contracting Parties will inform the other what are the competent authorities for the issue of these certificates as well as the forms which are required.

Article XIV.

Joint stock companies and other commercial, industrial and financial companies and associations including insurance company domiciled in the territories of one of the High Contracting Parties and having legal existence according to the laws in force of such Party shall be recognized as having legal existence in the territories of the other.

The provisions of Nos. 4, 5 and 6 of Article I, and of Articles II and III, of this Treaty, so far as they are applicable to the juridical persons, shall apply to the aforesaid companies and associations.

Except as otherwise expressly provided in this Treaty, the said companies and associations shall enjoy in all respects, in the territories of the other Party, the same rights, privileges and favours, including those regarding the admission to the exercise of commerce, industry or insurance, as those which are or may be granted to the similar companies and associations of the most favoured nation.

Article XV.

The coasting trade and the fisheries in the territorial waters of the High Contracting Parties are excepted from the provisions of the present Treaty and shall be regulated according to the laws of Japan and Lithuania respectively.

Article XVI.

Except as otherwise expressly provided in this Treaty, the High Contracting Parties agree that, in all that concerns commerce, industry and navigation, any favour, privilege or immunity which either High Contracting Party has actually granted, or may hereafter grant, to the ships, subjects or citizens of any other foreign State shall be extended immediately and unconditionally to the ships, subjects or citizens of the other High Contracting Party, it being their intention that the commerce, navigation and industry of each country shall be placed in all respects on the footing of the most favoured nation.

Article XVII.

The stipulations of this Treaty shall not apply:

(1) To tariff concessions which are or may be granted by either of the High Contracting Parties to contiguous States solely to facilitate frontier traffic, within a limited zone on each side of the frontier, so long as such concessions are not extended to any other country;

(2) To the treatment which is or may be accorded to the produce of the national fisheries of the High Contracting Parties or to special tariff favours granted by Japan in regard to fish and other aquatic products taken in the foreign waters in the vicinity of Japan;

(3) To favours which are or may be granted to a third Party by an agreement in order to avoid the double taxation;

(4) To favours which are or may be granted by Lithuania to the Baltic Republics (Latvia and Esthonia), so long as such favours are not extended to any other country.

Article XVIII.

The stipulations of the present Treaty shall be applicable to all the territories and possessions belonging to or administered by either of the High Contracting Parties.

Article XIX.

The present Treaty shall be ratified and the ratifications thereof shall be exchanged at Berlin as soon as possible. It shall enter into operation on the tenth day after the day of the

exchange of ratifications and remain in force for three years. In case neither of the High Contracting Parties shall have given notice to the other six months before the expiration of the said period, of its intention to terminate the Treaty, it shall continue operative until the expiration of six months from the date on which either of the High Contracting Parties shall have denounced it.

In witness whereof the respective Plenipotentiaries have signed the present Treaty in the English language, and have affixed thereto the seal of their arms.

Done at Berlin in duplicate this 2nd day of the 5th month of the 5th year of Showa, corresponding to the 2nd day of May, in the nineteen hundred and thirtieth year of the Christian era.

(L. S.) Harukazu Nagaoka

(L. S.) Venceslas Sidzikauskas

日本國「リスアニア」國間通商航海條約
ノ解釋ニ關スル公文ノ交換

(往翰)

以書翰啓上致候陳者日本國「リシアニア」國間ニ本日署名セラレタル通商航海條約第六條ニ關シ
本使ハ將來生ズルコトアルベキ誤解ヲ避クル爲、日本國政府ニ於テハ右第六條ノ規定ハ日本國政
府ガ千九百二十三年十一月十五日「ジュネーヴ」ニ會合シタル交通及通過ニ關スル第二回總會ニ依
リ採擇セラレタル海港ノ國際制度ニ關スル規程第七條ニ掲ゲラルル理由ニ依リ正當ナルコトヲ示
シ得ベキ關稅ノ特別輕減ヲ日本國ノ領域ノ陸境ヲ越エ輸入セラルル貨物ニ對シ爲スコトヲ妨グル
モノト解セラルルコトナカルベシト了解スル旨ヲ宣言スルノ光榮ヲ有シ候
本使ハ閣下ノ本國政府ガ前記解釋ニ同意ナル旨ノ確答ヲ得バ幸甚ノ至ニ候
本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和五年(千九百三十年)五月二日「ベルリン」ニ於テ

長 岡 春 一

獨逸國駐劄「リシアニア」國特命全權公使「ヴェンセスラス、シジカウスカス」閣下

(來 翰)

以書翰啓上致候陳者「リスアニア」國日本國間ニ本日署名セラレタル通商航海條約第六條ノ解釋ニ關スル本日附貴翰ニ對スル回答トシテ本使ハ「リスアニア」國政府ガ右第六條ニ對シ日本國政府ニ依リ與ヘラレタル解釋ニ全然同意ナル旨竝ニ「リスアニア」國政府ニ於テハ右第六條ノ規定ハ日本國政府ガ千九百二十三年十一月十五日「ジュネーヴ」ニ會合シタル交通及通過ニ關スル第二回總會ニ依リ採擇セラレタル海港ノ國際制度ニ關スル規程第七條ニ掲ゲラルル理由ニ依リ正常ナルコトヲ示シ得ベキ關稅ノ特別輕減ヲ日本國ノ領域ノ陸境ヲ越エ輸入セラルル貨物ニ對シ爲スコトヲ妨グルモノト解セラルルコトナカルベシト了解スル旨ヲ陳述スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十年五月二日「ベルリン」ニ於テ

ヴェンセスラス、シジカウスカス

獨逸國駐劄日本國特命全權大使長岡春一閣下

Berlin, May 2nd, 5 Showa (1930).

Monsieur le Ministre,

With reference to Article VI of the Treaty of Commerce and Navigation signed this day between Japan and Lithuania, I have the honour, in order to avoid any possible misunderstanding in future, to declare that the Japanese Government understand that the stipulations of the said Article will not be held to preclude the Japanese Government from making any special reduction of customs duty for goods imported over the land frontier of her territory which may be shown to be justified by the considerations referred to in Article 7 of the Statute on the International Régime of Maritime Ports adopted by the Second General Conference on Communications and Transit, which met at Geneva on the 15th November, 1923.

I should be much gratified to be assured that Your Excellency's Government concur in the interpretation above given.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, Monsieur le Ministre, the assurances of my highest consideration.

H. Nagaoka

His Excellency

Monsieur Venceslas Sidzikauskas,

Envoy Extraordinary and Minister Plenipotentiary
of Lithuania to Germany.

Berlin, May 2nd, 1930.

Monsieur l'Ambassadeur,

In reply to Your Excellency's note of to-day regarding the interpretation of Article VI of the Treaty of Commerce and Navigation signed this day between Lithuania and Japan, I have the honour to state that the Lithuanian Government entirely concur in the interpretation given by the Japanese Government to the said Article and that the Lithuanian Government understand that the stipulations of the said Article will not be held to preclude the Japanese Government from making any special reduction of customs duty for goods imported over the land frontier of her territory which may be shown to be justified by the considerations referred to in Article 7 of the Statute on the International Régime of Maritime Ports adopted by the Second General Conference on Communications and Transit, which met at Geneva on the 15th November, 1923.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency, Monsieur l'Ambassadeur, the assurances of my highest consideration.

V. Sidzikauskas

His Excellency

Monsieur Harukazu Nagaoka,
Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary
of Japan to Germany.